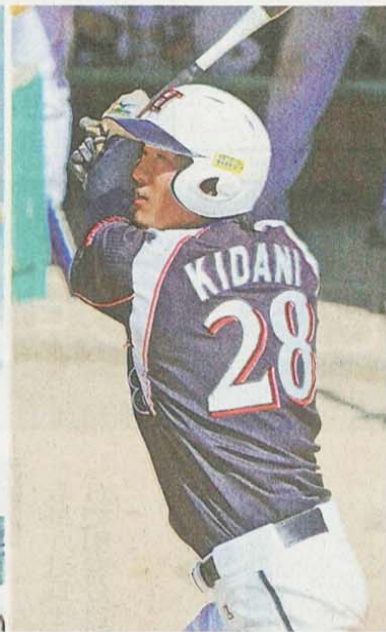


16カ国が覇を競うソフトボール男子の世界選手権は26日、カナダ・サスカトゥーンで開幕する。日本代表（選手17人、スタッフ5人）には岡山勢5人がエントリー。環太平洋大の西村信紀監督がヘッドコーチを務めるほか、投打の軸となる松田光ら平林金属クの4選手が名を連ね、準優勝した2000年以来4大会ぶりのメダル獲得を目指す。（村上達也）

平林金属クからはほかに、木谷謙吾、西山幸助、平本拓朗が代表入りし、活躍に期待がかかる。中でも2大会連続出場の松田、木谷にとっては前回大会（2013年、ニュージーランド）5位に終わっただけに、雪辱の舞台だ。



## 悲願のメダルへ気合

るわず出場機会は限られ、「あの悔しさをぶつける」と2人は口をそろえる。松田は西日本リーグで3季連続の本塁打王を獲得し、センス光る木谷も攻守に成長。進化した姿を世界に示す覚悟だ。

初舞台となる西山、平本に託される役割も大きい。同リーグ13年盗塁王に輝いた外野手の西山は「武器の足でかき回す」と走塁のスペシャリストとしてのプライドをのぞかせる。強肩捕手の平本は今季同リーグトップの5本塁打と打撃が好調。控えに回りそうだが、代打での起用に備え「少ないチャンスに懸ける」と力を込める。

予選リーグ初戦で対戦するオーストラリアなどの強豪は、最速140キロ近い球を投げる異次



西村信紀ヘッドコーチ

**予選リーグ組み分け**  
 ▼A組 アルゼンチン、カナダ、チェコ、イギリス、グアテマラ、インドネシア、ニュージーランド、フィリピン  
 ▼B組 オーストラリア、デンマーク、ドミニカ共和国、日本、メキシコ、オランダ、米国、ベネズエラ

【写真左上から時計回りに】投打の軸となる松田光、攻守にセンスの光る木谷謙吾、強肩強打の平本拓朗、俊足でかき回す西山幸助